

平成29年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
分担研究報告書

高齢者における聴覚障害と総合機能・認知機能の包括的評価：
難聴補正による認知症予防を目指した調査研究

一人暮らし高齢者への民生委員による難聴・社会的関心度に関するアンケート調査

研究分担者 中島 務（国立長寿医療研究センター客員研究員、一宮医療療育センター長）
研究分担者 櫻井 孝（国立長寿医療研究センター もの忘れセンター長）
研究分担者 内田育恵（愛知医科大学耳鼻咽喉科准教授）
研究分担者 曾根三千彦（名古屋大学大学院医学系研究科・耳鼻咽喉科学教授）
研究代表者 佐治直樹（国立長寿医療研究センター もの忘れセンター副センター長）
研究協力者 鈴木宏和（国立長寿医療研究センター 耳鼻咽喉科医長）
研究協力者 片山直美（名古屋女子大学家政学部食物栄養学科教授）

研究要旨

愛知県一宮市の大徳連区の一人暮らし高齢者を対象に民生委員がアンケート調査を2017年に行った。161人からのアンケート結果が得られ、男性25人、女性135人、性別記載なしが1人であった。最高齢99歳、最低齢66歳、平均80.6歳で、補聴器いつも使用7人、時々使用が7人であった。70歳代、80歳代、90歳代と年齢が上がるにつれて難聴の自覚が上昇していた。補聴器使用者14人のうち、聞こえで耳鼻科受診したのは7人のみであった。また難聴自覚の程度から補聴器適応と思われるも耳鼻科受診せず補聴器も使用していない人が少なくとも10人いた。「最近のニュースは何ですか？」に対する不正解率は、70歳代7.1%、80歳代18.6%、90歳代では63.6%であった。一人暮らし高齢者の難聴・認知症の問題に対応するにあたり民生委員の協力はたいへん効果的で必要であると思われた。

A. 研究目的

難聴は、社会的孤立の一因であり、認知症になる危険因子と報告されている。また、日本の高齢者の補聴器装用率は、欧米の約3分の1といわれている。高齢者への適切な補聴器適合が高齢化社会の日本で求められているところである。本研究では、一人暮らし高齢者を民生委員は時々訪問していることに着目し、民生委員による一人暮らし高齢者の難聴自覚や補聴器装用の有無、社会的関心度についての調査結果をもとに検討を行った。

B. 研究方法

愛知県一宮市の大徳連区の一人暮らし高齢者を対象に民生委員がアンケート調査を2017年に行った。一宮市は、人口38万6千人で愛知県の西部にあり、連区では23に分かれている。今回、一宮市の最も西にある大徳連区（人口1万1千人：民生委員15人）でアンケート調査を行った。一宮市は、2016年大学入試センター試験地理Bに出題されたように、市の中心にJRと名鉄がいっしょになった駅があり、周辺に行くほどほぼ同心円様に田舎的になっていくという状況になっている。

アンケートの内容を表1に示した。民生委員は、ふだん一人暮らし高齢者を時々訪問しており、アンケートもわざわざこのために訪問するのではなく日常的な訪問の中でアンケートをとってもらった。調査の前に、民生委員の会で調査の目的、調査法について説明し疑問点については返答した。なお、市に民生委員の訪問を希望しないと報告している一人暮らし高齢者および施設に入った高齢者は、この調査の対象にはなっていない。

アンケート結果は、個人名がまったくわからない形で研究者が受け取って解析を行った。調査に先立って杏嶺会一宮西病院の倫理委員会の承認を得た。(承認番号2017111)

C. 研究結果

161人からのアンケート結果が得られた。男性25人、女性135人、性別記載なしが1人であった。年齢記載なしが1人あったが、最高齢99歳、最低齢66歳、平均80.6歳で、補聴器いつも使用7人、時々使用が7人であった。

補聴器を使っている人も、補聴器なしの状態② 現在の耳の聞こえはどうか。

③ 1対1の会話は聞き取れますか？

④ 4, 5人の集まりで話がわかりますか？ について年齢別にどうだったかを、それぞれ表2、表3、表4にまとめた。それぞれ、年齢がすすむにつれて聞こえが悪くなっていく傾向が明らかにみられた。1対1の会話に比べて4, 5人の集まりでの話の方が、聞き取りが悪くなっている。

表5は、4, 5人での話について 少し聞き取れる、もしくはほとんど聞き取れない

と答えているが、耳鼻科受診せず、補聴器も使用していない10人の状況である。半数が「最近のニュースは何ですか？」について答えられない、もしくは不正解・古いであった。

表6は、補聴器使用者14人の補聴器ない状態とある状態での聞き取りの変化を示したものである。14人のうち、聞こえで耳鼻科受診したのは7人のみであった。補聴器使用で4, 5人での会話が 3少し聞き取れるから 2ほとんど聞き取れるに変化したのは2人いたが、この2人は耳鼻科受診していた。

表7は、70歳代、80歳代、90歳代における「最近のニュースは何ですか？」に対する正解、不正解の割合を示したものである。不正解率は、70歳代7.1%、80歳代18.6%に対し90歳代では63.6%であった。不正解の割合につきフィッシャー検定で80歳代は70歳代より高く($p<0.05$)、90歳代は80歳代より高かった($p<0.01$)。

D. 考察

一人暮らし高齢者において補聴器使っている人の半数が耳鼻科医を経由せず補聴器を使っていた。また、補聴器の適応と思われる人で耳鼻科医にかからず、補聴器も使用していない人が少なくとも10人いた。最近のニュースは何ですか？ に答えられない人のうち4, 5人での会話で、少し聞き取れる、ほとんど聞き取れない、と答えた13人のうち 補聴器を使っているのは4人にすぎなかった。その4人のうち3人は聞こえのことで耳鼻科を受診したことがなかった。以上のような状況から一人暮らし高齢

者は、補聴器の適応であっても多くの人は補聴器適合検査を受けていない実態が明らかとなった。これが、一宮市の田舎である大徳連区の特徴か、市の中心部の都市部では異なるのかは今後の調査が必要である。

今回の調査で「最近のニュースは何ですか」に答えられない人の割合は90歳代では過半数で、90歳代の一人暮らし高齢者には特に注意が必要であることがわかった。民生委員は、ふだん一人暮らし高齢者を時々訪問しており、今回の調査もその一環として行われた。2018年2月13日、調査を行った民生委員全員と結果報告かねて会合をもったが、民生委員および一人暮らし高齢者に調査におけるストレスはなかったとのことであった。また、民生委員から必要なら「一度耳鼻科にかかってみたら」と呼びかけることは問題ないとの発言もあった。今後、一人暮らし高齢者に民生委員を経由する調査を利用することにより、高齢者の難聴・認知症の問題に貢献できると考えている。

E. 結論

難聴は、社会的孤立の一因で認知症になる危険因子でもある。日本耳鼻咽喉科学会は、4000人以上の補聴器相談医名簿をホームページに載せているが、病院や診療所で待っているだけでは、高齢者全体の難聴の問題は解決できない。一人暮らし高齢者の難聴・認知症の問題に対応するにあたり民生委員の協力はたいへん効果的で必要であると思われた。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Yoshida T, Sugimoto S, Teranishi M, Otake H, Yamazaki M, Naganawa S, Nakashima T, Sone M. Imaging of the endolymphatic space in patients with Ménière's disease. *Auris Nasus Larynx*. 2018;45:33-38

2) Nakashima T, Tsuzuki K, Sugiyama K. Ménière's Disease or Ménière's Disease or Meniere's Disease? *Jibirinsho*. 2018;111:75-77

3) 中島 務 めまいを伴う突発性難聴.

Equilibrium Research. 2017;76:243-251,

4) 内田 育恵, 杉浦 彩子, 鈴木 宏和, 植田 広海, 曾根 三千彦, 中島 務. 一般地域住民を対象とした難聴発生を予測する因子の縦断的検討. *日耳鼻*. 2017;120:923-931

(資料) 一人暮らし高齢者を対象にした聞こえの調査資料

表1 民生委員によって行われたアンケート内容

① 補聴器を使ってみえますか？

いつも使っている A 時々使っている B 使っていない C

(補聴器を使ってみえる方も補聴器なしでの状態につき以下の②～⑤の質問に教えてください)

② 現在の耳の聞こえはどうか。

1. よく聞こえる
2. 時々聞こえが悪い感じがある。
3. 聞こえが悪いので話がうまくできない。
4. ほとんど聞こえない。

③ 1対1の会話は聞き取れますか？

1. すべて聞き取れる
2. ほとんど聞き取れる
3. 少し聞き取れる。
4. ほとんど聞き取れない

④ 4, 5人の集まりで話がわかりますか？

1. すべて聞き取れる
2. ほとんど聞き取れる
3. 少し聞き取れる。
4. ほとんど聞き取れない

⑤ 一人でテレビをみるときニュースを聞き取れますか？

1. すべて聞き取れる
2. ほとんど聞き取れる
3. 少し聞き取れる。
4. ほとんど聞き取れない

⑥ 聞こえが悪いことで耳鼻科を受診しましたか？ 受診した Y 受診していない N

⑦ 最近のニュースは何ですか。 正解 OK 不正解・古い F 取り繕い T わからない W

★補聴器を使っている人は、補聴器使ったの②、③、④、⑤の質問にも教えてください。

② () ③ () ④ () ⑤ ()

年齢は () 歳 性別は 男性 D、 女性 J

表2. 表1の質問項目②「現在の耳の聞こえはどうか」についての年齢別割合

年齢	人数	1. よく聞こえる	2. 時々聞こえが悪い感じがある	3. 聞こえが悪いので話がうまくできない	4. ほとんど聞こえない
66-69	7	100%	0%	0%	0%
70-79	56	71%	27%	2%	0%
80-89	86	51%	36%	10%	2%
90-99	11	27%	27%	45%	0%

表3. 表1の質問項目③「1対1の会話は聞き取れますか？」についての年齢別割合

年齢	人数	1. すべて聞き取れる	2. ほとんど聞き取れる	3. 少し聞き取れる	4. ほとんど聞き取れない
66-69	7	100%	0%	0%	0%
70-79	56	75%	21%	4%	0%
80-89	86	65%	19%	14%	2%
90-99	11	36%	36%	36%	9%

表4. 表1の質問項目④「4, 5人の集まりで話がわかりますか？」についての年齢別割合

年齢	人数	1. すべて聞き取れる	2. ほとんど聞き取れる	3. 少し聞き取れる	4. ほとんど聞き取れない
66-69	7	86%	14%	0%	0%
70-79	56	61%	29%	7%	4%
80-89	86	48%	28%	20%	6%
90-99	11	18%	36%	9%	36%

表5. 補聴器適応と思われたが、耳鼻科受診せず、補聴器も使用していない10人の状況

補聴器使用	耳の聞こえ	1対1の話	4,5人で話	テレビのニュース	聞こえで耳鼻科受診	最近のニュース	年齢	性別
なし	3	3	3	4	なし	わからない	93	女
なし	3	3	4	4	なし	わからない	92	女
なし	2	2	3	2	なし	正解	86	女
なし	2	1	3	1	なし	正解	73	女
なし	1	1	3	1	なし	わからない	83	男
なし	3	3	3	2	なし	正解	80	女
なし	2	1	3	2	なし	正解	82	女
なし	2	2	3	2	なし	正解	81	女
なし	2	3	3	3	なし	不正解・古い	85	女
なし	3	3	4	3	なし	わからない	99	女

この10人はアンケートで4,5人での話について少し聞き取れる、もしくはほとんど聞き取れないと答えた。耳の聞こえ、1対1の話、4,5人での話における数字は、表1アンケート②③④の質問の回答番号。

表6. 補聴器使用者14人の補聴器がない状態と補聴器がある状態

補聴器 使用	耳の聞 こえ	1対1 の話	4,5人 で話	テレビ のニュ ース	聞こえで 耳鼻科受 診	最近のニュ ース	年 齢	性 別
いつも	4→2	4→3	4→4	4→1	有り	正解	88	男
いつも	3→2	4→2	4→3	4→3	なし	不正解・古い	95	女
いつも	4→2	4→1	4→3	4→2	なし	正解	84	女
いつも	3→2	3→1	4→3	4→3	なし	わからない	85	女
いつも	3→3	3→3	3→3	3→3	なし	正解	84	
いつも	3→3	3→3	3→3	4→4	なし	正解	88	女
いつも	1→1	1→1	2→2	1→1	なし	正解	79	女
時々	2→2	3→2	4→4	4→2	有り	正解	86	男
時々	3→?	1→?	3→?	3→?	有り	正解	81	女
時々	2→?	2→?	2→?	3→?	なし	わからない	82	男
時々	2→1	3→1	3→2	2→1	有り	正解	78	女
時々	2→2	2→2	3→3	3→3	有り	正解	85	女
時々	3→1	3→1	3→2	2→1	有り	正解	82	男
時々	2→?	3→?	3→?	3→?	有り	わからない	81	女

矢印の左側は補聴器ない状態、矢印の右側は補聴器ありの状態。？は記載がなかった例。

耳の聞こえ、1対1の話、4,5人での話 における数字は、表1アンケート②③④の質問の回答番号。

表7. 「最近のニュースは何ですか？」に

対する正解、不正解の年齢別人数

年齢	不正解	正解
66-69	1	6
70-79	4	52
80-89	16	70
90-99	7	4